

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年1月5日(水)

### 《裁きの量りは愛である・不安からの解放》

主の平和

今日の福音(マルコ6・45-52)で目がとまったのは『安心しなさい。わたしだ。おそれることはない』という箇所です。では、安心の反対の言葉は何でしょうか。「不安」(誰かが答えました)そうですね、「不安」です。わたしたちはどうしようもなく生まれてから今まで、そしてこれからも色々な不安に陥ります。皆さまが、今持っている不安は何でしょうか。色々あると思いますが、例えば、クリスマスから元旦ミサに与らなかった方は「平日のミサにでも与らなくては」と思いながら来られた方がいらっしゃるかも知れません。不眠、不眠症がありますよね。その不眠症の原因はやはり不安です。何か心配することがあって、不安に陥って、眠りたくても寝られない。どんどん時間だけが経ってしまつと、こんどは寝られないことが不安になって寝られない。これが不眠症です。「うつ」はどうでしょうか。それも不安から来るものでしょう。

さあ、結局私達が一番恐れることの不安には何があるのでしょうか。体が弱くなっていく、そして老けること、そして死んでしまうこと、その最後にある不安は何でしょうか。「このまま、死んだら天国に行けない」ということではないのですか。人々は様々な立場で生きていると言っても、“最後に行き着く不安は死、”そして“死んでからのこと”ではないのでしょうか。そう思います。

皆様、イエス様は今日『安心しなさい。わたしだ。恐れることはない』とおっしゃっています。そのために何が必要でしょうか。私達が安心するためには自分が自分に協力しなければならないことがあります。それは何でしょうか。今日、簡単明瞭に使徒ヨハネの手紙ではっきり話されています。

**『神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってくださいます。こうして、愛がわたしたちの内に全うされているので、裁きの日に確信を持つことができます。』**

(1ヨハネ4・16-17) 結局、あらゆる人間が最後まで色々な不安の中で生きているのですが、その不安を越えるもっと大きな不安、それは「このまま死んでしまつたら、私ははたして天国に行けるのか」というものでしょう。例外はないと思います。自殺する人も同じ恐れを感じるのだと思います。それがひとつの葛藤になるかも知れません。

さあ皆様、私達が少なくともその不安から逃れるための、避けるための唯一の方法は、私は本当に**「愛”にどのくらい生きているのか。」「愛”を生きているのか。」「愛”に生きているのか。」**そのことをよく振り返って見る方法しかないと思います。司祭でも“愛”と反対の世界に住んでいれば何の意味もありません。修道者も同じでしょう。信仰を持っている皆様も同じでしょう。ご聖体を頂いても、憎しみばかりが自分の人生全てを包んでいれば、何の意味があるのでしょうか。結局私達が求めなければならないもの、それは“愛”です。求める心には**“愛”の体験が訪れます。**これは

観念的なことではありません。具体的な匂いがする、相手の汗が感じられる。その具体的な働きだと思います。ですから皆様、私達の信仰は何よりも求めようとすれば具体的な愛の生活ではないかと思います。もちろん難しいですよ。自分の苦手な性格もあると思います。手を伸ばそうとしても私はなかなかそれが出来ないタイプだからと言う人もいると思います。しかし他の人が出来るものならば自分も出来ます。そういう気持ちで私達が安心する唯一の方法はやはり神様の内にとどまって、そして私の内にイエス様がとどまっていることを確信しながら、出来るだけイエス様の真似をする、その心を保ちながら自分との戦いになるのではないかと思います。

皆様、安心しましょう。私達は安心しなければなりません。本当に面白いのはね、漕ぎ悩んでいる弟子たちと言う表現がありますが、結局私達の人生そのものが漕ぎ悩んでいることではないでしょうか。前に押しても逆風があったり、大きな波があったり、自分が考えた通りに行かないのが人生でしょう。私達が歌う「漕ぎ出せ、漕ぎ出せ」(歌集・大波のように)の歌があるでしょう。その気持ちで生きましょう。

今日、5千人を食べさせたことを弟子たちは理解せず、イエス様のことを恐れた、という表現がありました。私達も色々なみ言葉を聞いて、イエス様に感謝しますという事柄が沢山あるのですが、実際に私達は不安に陥ったり、色々なことで悩んでしまうと、イエス様について行った全てのことにしても、また確信が出来ていない印になるのではないかと思います。

もちろん、私達の弱さは、人生の最後まで不安に陥ると思います。その不安からどうにか解放される唯一の方法、その信仰を私達は持っていることを意識しましょう。そして、その意識は“愛”と繋がらなければ何の意味もないことも、もう一度考えてみましょう。結局、最後の“裁きの量りは愛である”と私達は固く信じなければならぬと思います。

ありがとうございました。